

浜の活力再生プラン

令和6～10年度

第3期

1 地域水産業再生委員会

組織名	田子の浦地域水産業再生委員会
代表者名	芹澤 豊（田子の浦漁業協同組合 代表理事組合長）

再生委員会の構成員	田子の浦漁業協同組合、富士市、田子の浦しらす船曳漁業組合
オブザーバー	—

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	しらす船曳網漁業（21名） 令和5年12月時点
-------------------	----------------------------

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

富士市周辺海域は、富士川他、多くの河川が流れ込み、また、黒潮からの暖水も入り込み、沿岸部に好漁場が形成されている。

駿河湾の一番奥に位置する田子の浦漁協の水揚げは、しらすのみである。

令和4年の水揚げ数量は約25トン、水揚げ金額は約4,111万円であった。

田子の浦しらすは『富士ブランド（富士商工会議所）』『しずおか食セレクション（静岡県）』『GI（地理的表示）』に登録されており、ブランドしらすを求めて、全国各地から田子の浦港漁協食堂に訪れるが、ここ数年の不漁により、供給が追いつかない状況であり、漁協食堂におけるしらすの在庫がなくなり、提供できない日もでてきている。

需要と供給のバランスの中において魚価は向上しているが、5年前は100トン以上も水揚げされていたしらすが1/4程度に落ち込んでしまうと、漁業者は漁業収入だけでは生活できなくなり、結果、漁業を離れることになったり、副業をせざるを得ない大変厳しい状況が続いている。

このような厳しい状況の中、田子の浦の漁業者・漁協は、引き続き漁業収入の向上を目指し、「魚価の向上」「6次産業化の推進」「観光客の誘致」などを進めていくとともに、省エネ機器や高効率機器の導入、省エネ航行や無駄な出漁を抑える等、コストの削減にも引き続き取り組む必要がある。

(2) その他の関連する現状等

富士市では富士山が世界遺産に登録された頃から、富士山そのものやビュースポットとなる観光地に、観光バスが年々増えており、当漁協食堂にもたくさんの観光バスが訪れていた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により観光客は減り、もともと工業の街である富士市の観光業は、今も活気が戻らないままである。

田子の浦港漁協食堂周辺においても、しらす販売店や飲食店が集まった街道を「富士山しらす街道」として立ち上げたが、魚価の高騰や漁獲量の減少により街道店の倒産や撤退により街道全体の活気が失われている。

以前は「しらす祭り」「しらす街道フェア」を毎年行っていたが、コロナ禍であったこととしらすの不漁により、「しらす」と名がつけられたイベントは行わなくなってしまった。しかしながら、それに代わる賑わいづくりとして「田子の浦みなとマルシェ&朝市」を2年続けて漁協主体の実行委員会にて開催し、こちらは好評を博した。

さらに、田子の浦漁協の網小屋があった場所の再整備計画により、現在、網小屋の移転が完了し、その跡地をにぎわいの拠点とする計画が進んでおり、漁港を中心としたにぎわいづくりの整備が進みつつある。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

1. 漁業収入向上のための取組

①GI 登録商品としての「田子の浦しらす」の周知・漁協食堂への集客力の向上

一艘曳きで獲り大量の水でしめた鮮度抜群のしらすとして、『田子の浦しらす』を、GI 登録商品であることの強みを生かして、他地域との差別化を図り、引き続き幅広く PR することで、他地域との価格競争の影響を受けにくいものとし、安定した魚価を維持するとともに、消費の拡大、さらなる魚価の向上を目指していく。

また、漁協食堂のさらなる集客数増加に取り組む。メディアの露出を増やすことや SNS (X: 6,900 人以上、Instagram: 2,100 人以上) をうまく活用することにより、来客数の向上を目指す。食堂事業が漁協の基幹事業となった今、市外・県外からの更なる集客を図り、食堂の売り上げを増加させることは漁協の安定収入を得ることにつながり、漁協の安定経営はひいては漁業者が安心して漁業が営むことができる基盤となる。来客数の増加は、しらすの使用量の増加につながり、魚価の向上にもつながる。

さらに、漁協 HP 内に新たに通販を開設するとともに、食堂や地域へ訪れた客に対し通販を PR し、県外等からでも田子の浦しらすを購入できる体制を整える。

②未利用魚の活用

中網しらすは、値が安く、自家消費とするか、漁獲時に廃棄してしまっていた。これまでの取組の成果もあり、大幅に単価は上昇しているが、それでも通常のしらすの半額以下の単価である。特に「かあげ」と呼ばれる、いわしになりかけている特に大型のしらすや、混じり物が多い場合には、前期プランの取組を経ても未利用の状況があまり解決できておらず、ほとんどは廃棄されてしまっている。こうした中網しらすも活用し、販売につなげることで漁業収入を増やす。

具体的には、漁業者自らがちりめんなどにして加工し販売し、漁協が食堂メニューや引き続きコロッケなどの加工原料として一定以上の価格で買い取りを行っていく。特にコロッケについては、製造委託先を複数とし、漁協購入分を増加することにより単価の向上を図るなどの取組を強化していくことにより、漁業収入の向上を目指す。また、「かあげ」や混じり物が多い場合は廃棄となっていたが、これらを活用したちりめん加工を検討するとともに、混じり物の簡易選別手法の開発に取り組むことで、積極的な利用を図る。

③わかめ養殖の安定化

H30 年から区画漁業権を取得して実施しているわかめ養殖については、第 3 期では、わかめ養殖の安定化を図り、継続的な漁業収入源とすると共に、収益性の高い生わかめの販売を行うなどして漁業収入の上乗せを図る。

④漁業者の 6 次産業化推進（食堂で提供する釜揚げしらすの委託加工の開始）

漁協食堂で使用する釜揚げしらすは、他地域の加工業者に田子の浦しらすを買い付けてもらい釜揚げ加工してもらっていたが、今後、漁業者の 6 次産業化を推進するため、地域内の漁業者に対して、漁協食堂で使用する釜揚げしらすの加工委託を開始する。これにより、漁業者の収入増を目指す。

2. 漁業コスト削減の取組

①燃料費抑制

燃油高騰など、経費削減に厳しい状況だが、効率的操業・省燃油活動など経費を抑えた操業を継続する。具体的には、省エネ航行の徹底、船の整備・清掃、船艇のペンキ塗りに加え、長期休漁明けの出漁時や、不漁時においてのしらす船曳組合全体で漁場の情報共有をし、操業の効率化といった取組を継続していく。

3. 漁村の活性化のための取組

令和 4 年から、漁協が主体となって開催している「田子の浦みなとマルシェ&朝市」を引き続き開催し、漁港周辺の交流人口増を目指す。イベントでは、漁業者による生しらすの直

売等により、田子の浦しらすをより身近に感じられるものとし、地域全体のPRにつなげていく。

また、（一社）富士山観光交流ビューローと連携し、田子の浦しらすの特徴や漁業を学ぶ水産教室と、漁協食堂での食事がパッケージとなったツアーについて、企画検討し、受け入れを図っていく。

（３）資源管理に係る取組

静岡県漁業調整規則に定められている事項に加えて、田子の浦漁協しらす船曳組合においては日曜日を休漁日とし、また出漁日においても、帰港時間を８時３０分までとすることで、資源保護に努めている。さらに、８月１３日から１６日と１２月３０日から１月４日までを自主的に休漁期間としている。

また、一昨年より豊かな海の実現のため、富士の森林組合と合同で、海や森の環境づくりについて考える活動をしている。具体的には、漁業者が山の土留の作業を手伝いや、林業者が漁船への乗船、漁業で使うロープの結び方の手ほどきを受けたりなどの交流を行うことでそれぞれの環境について学び、意見交換することで環境や資源について考えを深めた。

（４）具体的な取組内容

１年目（令和６年度） 所得向上率（基準年比）５.４２％

漁業収入向上のための取組	①GI登録商品としての「田子の浦しらす」の周知・漁協食堂への集客力の向上 ・漁協が主体となってGIブランドの保持と周知に努める。具体的にはメディアの積極的な受け入れや、HP、SNS（X、Instagram）を活用し水揚げ情報、食堂情報を頻繁に発信し、食堂への来客数増加や認知度向上を図る。 ②低・未利用魚である中網しらすの積極的な活用 ・漁協が地域の加工業者と連携して、特に大きい「かあげ」や、混じり物が多いしらすを用いて、ちりめん加工の商品開発を検討する。 ・漁協は、通常のしらすよりもやや大きいしらすについては、コロッケの原料や特製だれに漬け込み、漁協食堂でどんぶりメニューとして提供していくことを継続する。特にコロッケについては、安定供給に向けて、１者であった製造委託先を、複数業者とすることを検討する。混じり物が多い場合に対応できるよう簡易選別手法の開発を検討する。 ③わかめ養殖の安定化 ・漁業者は、わかめ養殖について、漁業者は刺網による食害魚の駆除を実施し、安定的な生産を目指す。また、生産物は漁港で行うイベント等を引き続き開催し、生わかめとして販売していく。また、塩蔵加工について、漁業者が地域の加工業者と検討する。 ④漁業者の６次産業化の推進（食堂で提供する釜揚げしらすの委託加工の開始） ・地域内の漁業者に対して、漁協食堂で使用する釜揚げしらすの加工委託を検討・協議し、試験的に開始する。
--------------	---

漁業コスト削減のための取組	①燃料費抑制 漁業者は省燃油を心がけて操業するのはもちろんのこと、5日以上の休漁後の出漁時や、不漁時にはしらす船曳組合全体で漁場の情報共有し操業の効率化を目指す。また、漁具や機器の情報も交換し合い漁獲精度を高める努力をする。 漁業者個々では、船の整備・清掃、船艇のペンキ塗りを行い、省エネにつなげていく。 これら取組により、基準値から燃料費5%削減を目指す。
漁村の活性化のための取組	・漁協が主催する「田子の浦みなとマルシェ&朝市」について、漁協駐車場のほか、網小屋跡地を活用することを検討し、イベントの規模拡大を図り、来場者の増加を図る。 ・水産教室と漁協食堂のパッケージツアーについて、漁協と漁業者により検討を行う。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティネット構築事業 競争力強化型機器等導入緊急対策事業 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業

2年目（令和7年度） 所得向上率（基準年比）7.08%

漁業収入向上のための取組	①GI登録商品としての「田子の浦しらす」の周知・漁協食堂への集客力の向上 ・漁協が主体となってGIブランドの保持と周知に努める。具体的にはメディアの積極的な受け入れや、HP、SNS（X、Instagram）を活用し水揚げ情報、食堂情報を頻繁に発信し、食堂への来客数増加や認知度向上を図る。 また、漁協HP内に通販を立ち上げ、漁協商品や漁業者加工商品の販売を行い、田子の浦しらすをいつでもどこでも消費できる体制を構築する。 ②低・未利用魚である中網しらすの積極的な活用 ・漁協が地域の加工業者と連携して、特に大きい「かあげ」や、混じり物が多いしらすを用いて、ちりめん加工の商品開発を行う。 ・漁協は、通常のしらすよりもやや大きいしらすについては、コロッケの原料や特製だれに漬け込み、漁協食堂でどんぶりメニューとして提供していくことを継続する。コロッケについては、複数業者への製造委託を開始する。混じり物が多い場合に対応できるよう簡易選別手法の開発の検討を継続する。 ③わかめ養殖の安定化 ・漁業者は、わかめ養殖について、刺網による食害魚の駆除を実施し、安定的な生産を目指す。また、生産物は漁港で行うイベント等で生わかめとして販売していく他、地域の加工業者の協力を得て塩蔵加工し、漁協食堂での提供を行う。 ④漁業者の6次産業化のさらなる推進（食堂で提供する釜揚げしらすの委託加工の開始） ・地域内の漁業者に対して、漁協食堂で使用する釜揚げしらすの加工委託を本格化させる。
漁業コスト削減のための取組	①燃料費抑制 漁業者は省燃油を心がけて操業するのはもちろんのこと、5日以上の休漁後の出漁時や、不漁時にはしらす船曳組合全体で漁場の情報共有し操業の効率化を目指す。また、漁具や機器の情報も交換し合い漁獲精度を高める努力をする。

	漁業者個々では、船の整備・清掃、船艇のペンキ塗りを行い、省エネにつなげていく。 これら取組により、基準値から燃料費 5%削減を目指す。
漁村の活性化のための取組	・漁協が主催する「田子の浦みなとマルシェ&朝市」について、漁協駐車場のほか、網小屋跡地を活用し、イベントの規模拡大を図り、来場者の増加を図る。 ・水産教室と漁協食堂のパッケージツアーについて、（一社）富士山観光交流ビューローと連携し、旅行業者等へ営業し、年間 1 件の受入を目指す。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティネット構築事業 競争力強化型機器等導入緊急対策事業 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業

3 年目（令和 8 年度） 所得向上率（基準年比）8.74%

漁業収入向上のための取組	①GI 登録商品としての「田子の浦しらす」の周知・漁協食堂への集客力の向上 ・漁協が主体となって GI ブランドの保持と周知に努める。具体的にはメディアの積極的な受け入れや、HP、SNS（X、Instagram）を活用し水揚げ情報、食堂情報を頻繁に発信し、食堂への来客数増加や認知度向上を図る。 ・また、漁協 HP 内に立ち上げた通販で扱う商品数を増加させつつ、SNS 等でも通販の認知度向上に取り組み、売り上げ増加を図る。 ②低・未利用魚である中網しらすの積極的な活用 ・漁協が地域の加工業者と連携して、特に大きい「かあげ」や、混じり物が多いしらすを用いて、ちりめん加工の商品を試験販売を行う。前年度に行った試験販売の結果を元に改良を加え、本格的な販売を目指す。 ・漁協は、通常のしらすよりもやや大きいしらすについては、コロッケの原料や特製だれに漬け込み、漁協食堂でどんぶりメニューとして提供していくことを継続する。コロッケについては複数業者への製造委託により、供給を安定させ、販売数量増加を図る。開発した簡易選別手法を試験し、随時改良を加える。 ③わかめ養殖の安定化 ・漁業者は、わかめ養殖について、刺網による食害魚の駆除を実施し、安定的な生産を目指す。また、生産物は漁港で行うイベント等で生わかめとして販売していく他、地域の加工業者の協力を得て塩蔵加工し、漁協食堂での提供を行う。また、漁協直売所での販売も開始する。 ④漁業者の 6 次産業化のさらなる推進（食堂で提供する釜揚げしらすの委託加工の開始） ・地域内の漁業者に対して、漁協食堂で使用する釜揚げしらすの加工委託を継続する。また、2 年目までの取組をもとに実施漁業者と漁協が協議を行い、委託量を増加させていく。
漁業コスト削減のための取組	①燃料費抑制 漁業者は省燃油を心がけて操業するのはもちろんのこと、5 日以上のお休みの後の出漁時や、不漁時にはしらす船曳組合全体で漁場の情報共有し操業の効率化を目指す。また、漁具や機器の情報も交換し合い漁獲精度を高める努力をする。 漁業者個々では、船の整備・清掃、船艇のペンキ塗りを行い、省エネにつなげていく。

	これら取組により、基準値から燃料費 5 %削減を目指す。
漁村の活性化 のための取組	・漁協が主催する「田子の浦みなとマルシェ&朝市」を引き続き開催する中で、内容を充実させていき、来場者の増加を目指す。 ・水産教室と漁協食堂のパッケージツアーについて、（一社）富士山観光交流ビューローと連携し、旅行業者等へ営業し、年間 2 件の受入を目指す。
活用する支援 措置等	漁業経営セーフティネット構築事業 競争力強化型機器等導入緊急対策事業 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業

4 年目（令和 9 年度） 所得向上率（基準年比）10.40%

漁業収入向上 のための取組	①GI 登録商品としての「田子の浦しらす」の周知・漁協食堂への集客力の向上 ・漁協が主体となって GI ブランドの保持と周知に努める。具体的にはメディアの積極的な受け入れや、HP、SNS（X、Instagram）を活用し水揚げ情報、食堂情報を頻繁に発信し、食堂への来客数増加や認知度向上を図る。 ・また、漁協 HP 内に立ち上げた通販について、SNS 等で認知度向上を継続し、売り上げ増加を図る。 ②低・未利用魚である中網しらすの積極的な活用 ・漁協が地域の加工業者と連携して、特に大きい「かあげ」や、混じり物が多いしらすを用いて、ちりめん加工の商品の販売を開始する。 ・漁協は、通常のしらすよりもやや大きいしらすについては、コロッケの原料や特製だれに漬け込み、漁協食堂でどんぶりメニューとして提供していくことを継続する。コロッケについては複数業者への製造委託により、供給を安定させ、販売数量増加を図る。また、改良した簡易選別手法により、取扱量を増加させる。 ③わかめ養殖の安定化 ・漁業者は、わかめ養殖について、刺網による食害魚の駆除を実施し、安定的な生産を目指す。また、生産物は漁港で行うイベント等で生わかめとして販売していく他、地域の加工業者の協力を得て塩蔵加工し、漁協食堂での提供を行う。 ④漁業者の 6 次産業化のさらなる推進（食堂で提供する釜揚げしらすの委託加工の開始） ・地域内の漁業者に対して、漁協食堂で使用する釜揚げしらすの加工委託を継続し、委託量を増加させていく。
漁業コスト削減 のための取組	①燃料費抑制 漁業者は省燃油を心がけて操業するのはもちろんのこと、5 日以上のお休みの出漁時や、不漁時にはしらす船曳組合全体で漁場の情報共有し操業の効率化を目指す。また、漁具や機器の情報も交換し合い漁獲精度を高める努力をする。 漁業者個々では、船の整備・清掃、船艇のペンキ塗りを行い、省エネにつなげていく。 これら取組により、基準値から燃料費 5 %削減を目指す。

漁村の活性化 のための取組	・漁協が主催する「田子の浦みなとマルシェ&朝市」を引き続き開催する中で、内容を充実・出展者数を増加させていき、来場者の増加を目指す。 ・水産教室と漁協食堂のパッケージツアーについて、（一社）富士山観光交流ビューローと連携し、旅行業者等へ営業し、年間3件の受入を目指す。
活用する支援 措置等	漁業経営セーフティネット構築事業 競争力強化型機器等導入緊急対策事業 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業

5年目（令和10年度） 所得向上率（基準年比）12.06%

漁業収入向上 のための取組	①GI登録商品としての「田子の浦しらす」の周知・漁協食堂への集客力の向上 ・漁協が主体となってGIブランドの保持と周知に努める。具体的にはメディアの積極的な受け入れや、HP、SNS（X、Instagram）を活用し水揚げ情報、食堂情報を頻繁に発信し、食堂への来客数増加や認知度向上を図る。 ・また、漁協HP内に立ち上げた通販について、SNS等で認知度向上を継続し、売り上げ増加を図る。 ②低・未利用魚である中網しらすの積極的な活用 ・漁協が地域の加工業者と連携して、特に大きい「かあげ」や、混じり物が多いしらすを用いて、ちりめん加工の商品の販売を継続する。 ・漁協は、通常のしらすよりもやや大きいしらすについては、コロッケの原料や特製だれに漬け込み、漁協食堂でどんぶりメニューとして提供していくことを継続する。コロッケについては複数業者への製造委託により、供給を安定させ、販売数量増加を図る。また、改良した簡易選別手法により、取扱量を増加させる。 ③わかめ養殖の安定化 ・漁業者は、わかめ養殖について、刺網による食害魚の駆除を実施し、安定的な生産を目指す。また、生産物は漁港で行うイベント等で生わかめとして販売していく他、地域の加工業者の協力を得て塩蔵加工し、漁協食堂での提供を行う。 ④漁業者の6次産業化のさらなる推進（食堂で提供する釜揚げしらすの委託加工の開始） ・地域内の漁業者に対して、漁協食堂で使用する釜揚げしらすの加工委託を継続し、委託量を増加させ、R4取扱量の3割を委託加工によって賄う。
漁業コスト削減 のための取組	①燃料費抑制 漁業者は省燃油を心がけて操業するのはもちろんのこと、5日以上のお休みの出漁時や、不漁時にはしらす船曳組合全体で漁場の情報共有し操業の効率化を目指す。また、漁具や機器の情報も交換し合い漁獲精度を高める努力をする。 漁業者個々では、船の整備・清掃、船艇のペンキ塗りを行い、省エネにつなげていく。 これら取組により、基準値から燃料費5%削減を目指す。
漁村の活性化 のための取組	・漁協が主催する「田子の浦みなとマルシェ&朝市」を引き続き開催する中で、内容を充実・出展者数を増加させていき、来場者の増加を目指す。 ・水産教室と漁協食堂のパッケージツアーについて、（一社）富士山観光交流ビューローと連携し、旅行業者等へ営業し、年間5件の受入を目指す。

活用する支援 措置等	漁業経営セーフティネット構築事業 競争力強化型機器等導入緊急対策事業 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業
---------------	---

(5) 関係機関との連携

田子の浦しらすのPR及び漁協食堂への集客のため、(一社)富士山観光交流ビューローと連携して、フェアへの出展等を通して大都市圏の旅行業者等への営業活動を行っていく。

(6) 取組の評価・分析の方法・実施体制

浜プランの取組の実施状況及び効果の発現状況を自ら評価・分析し、それを踏まえた取組の改善を検討するため、進捗管理チェックシートを作成し、年に1回、委員による進捗状況の確認を行う。
--

4 目標

(1) 所得目標

漁業者の所得の向上 10%以上	基準年	
	目標年	

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

燃料費の抑制	基準年	平成30年～令和4年度平均 燃料費 8,071 千円
	目標年	令和10年度 燃料費 7,667 千円
「田子の浦みなとマルシェ &朝市」来場者数	基準年	令和4年度 来場者 約1,500 人
	目標年	令和10年度 来場者 約1,650 人

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

1. 燃料費の抑制

平成 30 年～令和 4 年度における 1 人当たり平均燃料費 8,071 千円を基準値とした。

省エネ航行の徹底、船の整備・清掃、船艇のペンキ塗りに加え、5 日以上の休漁後の出漁時や、不漁時にはしらす船曳組合全体で漁場の情報共有を行うことで、基準値の 5 %である 404 千円の燃料費を削減し、目標年の燃料費を 7,667 千円とした。

2. 「田子の浦みなとマルシェ&朝市」来場者数

令和 4 年から漁協が中心となって開催している「田子の浦みなとマルシェ&朝市」について、会場の拡大や内容の充実により、令和 4 年では約 1,500 人であった来場者を 10%増加させ、目標年では 1,650 人とした。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
漁業経営セーフティネット構築事業	事業活用によって燃油価格の高騰に備え、プラン内における燃油コスト削減と併せて漁業経営の安定化に取り組む。
競争力強化型機器等導入緊急対策事業	適正な時期での機関の更新を促し、収入向上を図るため、当事業を活用する。
水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業	適正な時期での機関の更新を促し、収入向上を図るため、当事業を活用する。